

会 告

第 103 回 (昭和 57 年 4 月) 講演大会講演募集案内 講演大会ポスターセッション案内

講演申込 (原稿同時提出) 締切り 昭和57年1月11日(月)

会場：東京工業大学 (東京都目黒区大岡山2-12-1)

本会は第 103 回講演大会を昭和 57 年 4 月 1 日(木)、2 日(金)、3 日(土)の 3 日間東京工業大学において開催することになりました。下記により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和 57 年 1 月 11 日(月)までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

また、本会は従来春季講演大会においてはポスターセッション講演を 10 ブース程度 (総計30件) の規模でテーマを決めて募集し開催してまいりましたが、今 103 回大会におきましては **30 ブース (総計 150 件)** と規模を拡げて実施することになりました。実施に当りましては、特にポスターセッションとしての募集は行なわず、講演申込に際し、講演申込書所定欄にポスターセッションへの参加の可否の意志を記入していただき、参加の意志を表示されたものならびに意志の記入のないものの中から各分野 (製鉄・製鋼・加工(計測, 管理を含む)・性質) ごとに適当数 (30件程度) を講演大会分科会で選定し統一テーマのセッションとして実施いたします。

従つて、ポスターセッション参加をお断わりの場合は講演申込書の所定の欄にポスターセッションへの不参加の旨必ず記入して下さいようお願いいたします。(ご記入がなされていない場合はポスターセッションで講演していただく場合もあります)

なお、ポスターセッションと同一テーマの講演は並行して同じ時間帯では行ないません。(詳しくはポスターセッション運営方法 (N291 ページ) をご参照下さい。

(ポスターセッション会場)

1. 会場は東京工業大学長津田キャンパスか、又は大岡山キャンパスとなります。
2. 長津田キャンパスは、討論会・一般講演会場 (大岡山キャンパス) から東急大井町線・田園都市線で 50 分離れた地区となります。

講演概要は和文と同内容を英文化 (所定のタイプ用紙 1 枚) し、Trans. ISIJ に投稿できるようになつておりますので、多数ご投稿下さるよう併せてご案内申し上げます。投稿締切日：57年4月30日(金)

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
2. 講演時間 1 講演につき講演15分 またはポスターセッション2時間
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいように簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等が必ず盛り込まれているものとする。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙 (1600字詰) 1 枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は 2 枚までを認めます。(いずれも表、図、写真を含む) ただし編集委員会で査読のうえ 1 枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は所定の用紙にタイプ印書あるいは黒インキまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 単位は「鉄と鋼」投稿規程に準じます。
 - 8) 図、表、写真中の表題ならびにその中の説明は、講演概要原稿、スライド共に原則として英文といたします (講演大会に参加する海外会員の便宜をはかるため)
 - 9) 原稿用紙は有償頒布いたしております。
 - 10) 原稿の書き方は鉄と鋼 Vol. 67, No. 16 (次号) 会告末に綴込まれております。
4. 講演申込資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえで、講演申

申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。

5. 講演申込制限

- 1) 講演申し込みは **1人3件以内**といたします。
- 2) 連報講演は原則として一講演会あたり **3報**までとします。

6. 申込方法 本誌会告末に添付の講演申込用紙ならびに受領通知ハガキに必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともに申し込み下さい。

7. 申込用紙の記載について

- 1) 申込用紙は (A), (B), (C) とともに太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。(申込用紙は、本誌 **16号(12月号)** 会告末に綴込まれております。
- 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、下記講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
- 3) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
- 4) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。

8. 申込の受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意ください。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
- 2) 必要事項が記入されていない申込
- 3) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
- 4) 鉛筆書き原稿、文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当と認められるもの

9. 申込締切日 昭和 **57年1月11日(月)17時**着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。

10. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課 (電) 03-279-6021 (代)

講演分類

製 鉄						製 鋼					加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	還元鉄製造	合金鉄	製鉄耐火物	製鋼原料	製鋼基礎	溶解・精錬	鑄造	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			材 料										
15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25			
鑄造	粉末冶金	溶接	基礎物性	組織	性質	分析	試験・検査技術	計測・制御	管理環境情報	その他			

第 103 回講演大会 (昭和 57 年春季)

ポスターセッション講演運営方法

発表形式の新しい試みとして 4 年間にわたり春の講演大会でポスターセッションを実施いたしましたところ、大変好評を博しました。そこで 57 年の春季大会ではポスターセッションを拡充・実施し、一層の成果をあげたいと存じます。

ポスターセッションとは何か? 講演者にはポスターをはる場所と長い時間を与え、聴講者には聴きたい講演の選択と時間を与え、個人の中の十分な触れ合いと意見交換ができるようにした新しい方式であります。

ポスターセッションはどのように運営されるか? 講演者には室内にポスターのはれる壁面の他に机 1 個が用意されます。発表時間は約 2 時間与えられます。1 名以上 (できれば 2 名) の講演者が必ずその場に居ることが必要であります。講演者は下記の注意を守る限り、ポスター、写真、試料、テープレコーダなど何を用いてもよく、聴講者はどのブースでも話を聴きあるいは討論することができます。

今大会でのポスターセッションの運営方法 今大会におきましては 30 ブース (総計 150 件) と規模を拡げて実施いたします。実施に当たりましては、特にポスターセッションとしての募集は行わず、講演申込 (締切昭和 57 年 1 月 11 日) に際し、講演申込書所定欄にポスターセッションへの参加の可否の意志を記入していただき、参加の意志を表示されたものならびに、意志の記入のないものの中から各分野 (製鉄・製鋼・加工 (計測, 管理を含む)・性質) ごとに 30 件程度を講演大会分科会で選定し、統一テーマのセッションとして実施いたします。 (従つてポスターセッションお断わりの場合は講演申込書の所定の欄にポスターセッションへの不参加の旨必ず記入して下さい。記入がなされていない場合はポスターセッションで講演していただく場合もあります。)

- (1) ポスターセッションと同一テーマの講演は並行して同じ時間帯では行いません。
- (2) 講演の前刷りは普通講演に準じます。
- (3) ポスターセッションの時間は次のようにいたします。

	ポスター 搬入展示	講演・討論	撤 去
午 前	9:00 ~10:00	10:00 ~12:00	12:00 ~12:30
午 後	12:30 ~13:30	13:30 ~15:30	15:30 ~16:00

- (4) ポスターを張る壁面は幅 1.8m × 高さ 0.9m 1 面です。

ポスターは壁面に画鋏で張り、B 4 判の用紙を使いますと 12 枚が一度にはれます。(画鋏、セロテープなどは協会で準備いたします) ポスターを張る壁面の前に小机が用意されますので、サンプルや模型など小机の上に展示することもできます。

- (5) ポスターに書く文字は 2 m 離れてもみえる大きさとして下さい。ポスターはマジックインキによる手書で結構です。
- (6) 事務局にて壁面の上部に横書きで講演番号、演題、所属、発表者を記しておきます。
- (7) ポスターは 1 枚ごとに左上に講演番号を記しておいて下さい。
- (8) 講演者には胸につける名札をさし上げますので講演中つけて下さい。
- (9) スライドは使用できません。

〔ポスターセッション会場〕

- (1) 会場は東京工業大学長津田キャンパスか又は大岡山キャンパスとなります。
- (2) 長津田キャンパスは討論会・一般講演会場 (大岡山キャンパス) から東急大井町線・田園都市線で 50 分離れた地区となります。
(大井町線大岡山乗車、二子玉川園乗りかえ田園都市線“すずかけ台”下車徒歩 5 分)

第 78・79 回 西山記念技術講座

—— 鉄鋼材料の環境強度とその評価 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 78・79 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので、多数ご来聴下さいますようお願いいたします。

I 期 日 第 78 回 昭和 56 年 11 月 30 日 (月) 12 月 1 日 (火)

大阪 大阪科学技術センター大ホール (大阪市西区靱本町 1-8-4) TEL 06-443-5321

第 79 回 昭和 56 年 12 月 8 日 (火), 9 日 (水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階) TEL 03-279-0311

II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~11:00	設計, 保守の観点から見た環境強度問題	東京大学生産技術研究所	北川 英夫
	11:10~12:40	腐食割れの偶発性と信頼性の確率統計論的取り扱い	北海道大学工学部	柴田 俊夫
	13:30~15:00	環境脆化による損傷事例とその対策	千代田化工建設(株)材料溶接技術部	内藤 勝之
	15:10~16:40	化学プラントでの鋼構造物の脆化と問題点	日揮(株)検査安全技術センター	渡辺 竹春
第 2 日	9:30~11:00	環境割れのモニタリング	東京大学工学部	岸 輝雄
	11:10~12:40	力学からみた環境脆化感受性と変形モードの影響	大阪大学工学部	向井 喜彦
	13:30~15:00	A P C の強度評価に関するトピック		
		一低濃度塩化物環境中ステンレス鋼可使用条件の絶対評価手法—	東京大学工学部	辻川 茂男
	15:10~16:40	A P C, H E を通しての水素の役割	新日本製鉄(株)基礎研究所	村田 朋美

III 講演内容

1) 設計, 保守の観点からの環境強度問題 北川 英夫

環境強度問題へのアプローチの多様性と対照しつつ, 環境による破壊, 損傷, 事故への対処の現状を分析し, 環境破壊対策における問題点と解決すべき諸課題について設計と保守の観点から論じる。

2) 腐食割れの偶発性と信頼性の確立論的取り扱い 柴田 俊夫

腐食割れ現象では, 破壊現象でみられるばらつきに加えて, 腐食現象固有の偶然的性質が存在するため, 腐食割れ感受性を示すパラメータのばらつきは大きい。材料の腐食割れ感受性の定量的評価や寿命予測を行うためには, この腐食割れの示す偶発性を確率論に基づき解析する必要がある。事例に基づき腐食割れの示す確率的性質を整理し, さらに材料寿命予測と信頼性評価のための信頼性工学的手法について述べる。

3) 環境脆化による損傷事例とその対策 内藤 勝之

化学装置においては, その取り扱う物質や操作条件の多様性により包含する環境脆化問題もバラエティに富んでいるが, とりわけ鉄鋼材料の応力腐食割れと水素脆化は損傷例も多く重要である。本講では, このうちとくに, 湿性硫化水素環境, 常温高圧水素環境, 高温高圧水素環境などで使用される機器の, 水素に起因する損傷例, 提起されている問題点, 対策などについて概要を述べる。

4) 化学プラントでの鋼構造物の脆化と問題点 渡辺 竹春

化学プラントで, 長時間高温あるいは高温高圧水素雰囲気および腐食性雰囲気下使用される鋼構造物は腐食, 脱炭, 析出あるいは割れなどが原因して強度低下あるいはじん性低下を来たすことがある。これら強度低下およびじん性低下をもたらす環境条件とそれらの実態を紹介すると共に, これらの現象が鋼構造物の安全性におよぼす影響を許容応力ならびに許容欠陥寸法の面から考察する。さらにそれらの検知手段の現状を簡単に述べる。

5) 環境割れのモニタリング 岸 輝雄

応力腐食, 腐食疲労による割れを非破壊的にモニターするには, 超音波探傷および A E が考えられる。主に H E, A P C に注目して A E によるモニタリングの新しい手法, および可能性をまとめ, かつ新しい信号処理技術の一つとして A E 原波形解析の環境割れ適用について概観する。

6) 力学からみた環境脆化感受性と変形モードの影響 向井 喜彦

主として SUS 304 ステンレス鋼の 42% MgCl₂ ふつ騰水中における SCC を取り上げ, 伝播特性における第 1 領域 ($da/dt \propto K^2$) から第 2 領域 ($da/dt = \text{一定}$) への移行とき裂の分岐との関連性を, き裂前方の変形状態 (平面ひずみ, 平面応力) と対応することを示す。またその他の環境での SCC の分岐形態の特殊性も力学的観点から考察する。さらに K_{Isc} におよぼす変形モード, き裂深さなどの影響についても述べる。

7) APC の強度評価に関するトピック 辻川 茂男

最近高純フェライト系ステンレス鋼の温水環境におけるよい実績が伝えられ、オーステナイト系も含めた各種ステンレス鋼のおのおのについてその可使用限界条件を明確にすることが望まれるようになった。このような低濃度塩化物水溶液環境におけるステンレス鋼の強度評価試験の手法について、背景となつた各種塩化物環境中き裂発生条件の調査及び局部腐食とくにすきま腐食の実際的重要性・評価法とともに解説する。

8) APC, HE を通しての水素の役割 村田 朋美

鉄鋼材料の広義の応力腐食割れには活性径路型 (APC) と水素脆性型 (HE) とがある。石炭ガス液や硝酸塩中での構造用鋼の割れは前者であり、自然環境中での高力ボルト遅れ破壊、油井用鋼管の硫化物割れは後者である。しかし鋼の強度が高くなると前者の環境条件下で水素脆性破壊が優先するようになり割れモードも変化することがわかっている。一方最もよく知られているオーステナイト系ステンレス鋼の塩化物割れと水素の関係がすつきりしていない。本報告では競合する2つの機構を強度依存性、温度依存性、環境依存性といった側面から整理し、残された課題を考察する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

第 80・81 回西山記念技術講座

—— 製鉄業における省エネルギー技術の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 80・81 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようお願いいたします。

I 期 日 第 80 回 昭和 57 年 2 月 25 日(木), 26 日(金)

八幡 北九州市勤労者会館ホール (北九州市八幡東区中央 2-1-1 TEL 093-661-7334)

第 81 回 昭和 57 年 3 月 10 日(水), 11 日(木)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-9-4 TEL 03-279-0311)

II 仮題ならびに講師

第 1 日	10:00~11:30	省エネルギーの考え方の基礎	東京大学工学部	平田 賢
	12:30~15:40	鉄鋼業の省エネルギーとエネルギー構造の変化	新日本製鉄(株)堺製鉄所	中川 侃
			住友金属工業(株)本社	山本 哲也
第 2 日	9:30~11:00	中低温排ガス顕熱回収技術	新日本製鉄(株)本社	村田 裕司
	11:10~12:40	固体顕熱回収技術	川崎製鉄(株)	陣野 友久
	13:30~15:00	断熱技術	イソライト工業(株)	堀江 鋭二
	15:10~16:40	高効率熱交換器の進歩	大倉エンジニアリング(株)	斉田 圭司

III 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

IV テキスト代 4,500 円

V 問合せ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

東海支部 特別講演会

日時 昭和56年11月25日(水) 14:00~15:30
 場所 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学豊田講堂第1会議室
 題目 「金属複合材料の現状と将来」
 講師 東京医科歯科大学教授 三浦 維四氏
 問合先 日本金属学会鉄鋼協会東海支部
 〒464 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学工学部金属鉄鋼工学教室内
 Tel. (052) 781-5111 内線 3372

東海支部 学術討論会

従来の支部学術講演会に代るものとして、昨年度に引き続き本年度も、上記学会各支部の協賛を得まして、下記テーマにより学術討論会を下記の如く開催致すことに相成りました。皆様方多数御参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

日時 昭和56年11月17日(火) 9:30~16:45
 場所 名古屋市中村区名駅 4-4-39
 愛知県中小企業センター 4階会議室
 テーマ「金属材料の疲労と破壊」
 9:30~12:00 司会 玉置維 昭 (三重大)
 9:30~10:15 「金属の疲労破壊と破壊力学」
 大塚 昭夫 (名大・工)
 10:15~11:45 「破壊力学とフラクトグラフィー
 の現状と問題点」
 小寺沢良一 (筑波大)
 11:45~12:00 「討論」
 昼食 (休憩)
 13:00~16:45 司会 橋本亀太郎 (トヨタ自工)
 吉田 亨 (名城大)
 13:00~14:00 「金属の破壊と環境因子」
 駒井謙治郎 (京大・工)
 14:00~14:25 「討論」
 14:25~15:10 「実機の疲労強度評価の問題点」
 青山 咸恒 (豊田中研)
 15:10~15:35 「討論」
 15:35~16:20 「破壊事故解析その手法と解析例」
 藤原 昌晴 (三菱重・横浜研)
 16:20~16:45 「討論」
 参加費 一般 1,000円, 学生 500円, (資料代を含む)
 問合先 〒464 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学工学部金属・鉄鋼工学教室内
 日本金属学会・鉄鋼協会東海支部内線
 Tel. (052) 781-5111 内線 3372

北海道支部

昭和56年度秋季講演会開催案内

本会北海道支部では、日本金属学会北海道支部と共催により秋季講演会を下記により開催いたします。
 多数ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

記

期日：昭和56年11月26日(木)・27日(金)

場所：北海道大学工学部 B 32 教室 (札幌市北区北13-西8)

第1日目 11月26日(木)

9:35~10:35

1. 鉄系非晶質合金の結晶化過程 北大工 ○鈴木常夫ほか
2. AES および ESCA による非晶質 $Pd_{80}Si_{20}$ 合金の解析 北大工 ○谷脇雅文ほか
3. 多結晶シリコンの光学的、電気的特性 北大工
○大田達之ほか
10:40~11:40
4. 共通硫化物の形態に与える C, Si, Al などの影響 北大工 ○小林十思美ほか
5. 逆V偏析の発生状況と臨界値の検討 日鋼 ○山田人久ほか
6. 有限要素法による連鑄片のバルジング解析 新日鉄
○笈 伸雄ほか
11:45~12:45
7. 硫化水素環境における鋼の水素吸収 日鋼 ○吉野勇一
8. $CaNi_5$ 合金の水素吸収割れ新生表面からのエキソ電子放射に及ぼす雰囲気ガスの影響 室工大 ○三沢俊平ほか
9. $12C_1$ 系鋼の δ フェライト挙動 日鋼 ○村上 豊ほか

— 昼 休 —

12:45~13:45 支部評議員会
 13:50~15:20 特別講演
 15:30~17:00 湯川記念講演
 17:00~18:00 懇親会

第2日目 11月27日(金)

9:00~10:00

10. 白色X線ペンデルビート法による Zn の原子散乱因子の測定 (I) 北大工 ○高間俊彦ほか
11. インバー合金の磁性と体積弾性率 北大理 ○巨海玄道ほか
12. 3α -遷移金属合金の磁性と体積弾性率 北大理
○毛利信男ほか
10:05~11:05
13. デンドライトの一次枝間隔に及ぼす凝固条件の影響 旭川工専 ○佐藤知敏
14. 凝固遷移層の q 層区間とデンドライト間分離 北大工 ○李万林ほか
15. デンドライト間分離形態と引張り強度 苫小牧工専 ○大島聡範ほか
11:10~12:30
16. 浸漬ランスによる気酸インジェクション脱 Si 法の

開発 (溶銑脱 P およびその適用技術の開発-I)

新日鉄 ○木下和宏ほか

17. 気酸インジェクション脱 Si の冶金的特徴 (溶銑脱 P およびその適用技術の開発-II) 新日鉄 ○河内雄二ほか

18. CaO-FeO-CaF₂ 系フラックスによる溶銑脱 P 技術の開発 (溶銑脱 P およびその適用技術の開発-III)

新日鉄 ○名木 稔ほか

19. 溶銑脱 P によるステンレス鋼・高炭素鋼新溶製法の確立 (溶銑脱 P およびその適用技術の開発-IV)

新日鉄 ○升光法行ほか

13:00~14:00

20. 電気炉ダスト還元炉の操業状況 日鋼 ○佐々木一男ほか

21. 13Cr-Ni 系鑄鋼の粒界脆化と HNO₃ 腐食試験

日鋼 ○波多野隆司ほか

22. 405 クラッド鋼製圧力容器の溶接継手内面肉盛部に発生した欠陥とその対策

14:05~15:05

23. 熱延ロール表面疵の渦流探傷 新日鉄 ○長屋雅人ほか

24. 極低炭素鋼板の再結晶集合組織発達に及ぼす窒素とマンガンの影響 室工大 田頭孝介ほか

25. 高純度鉄鉱石の還元鉄粉による焼結鉄圧延板の強度開発試 ○鈴木良和ほか

15:10~16:10

26. SiC/Ni 複合材の熱サイクルによる界面の変化 道工試 ○酒井昌宏ほか

27. Ni-Si 合金におけるボイド形式におよぼす Si の偏析効果 北大工 ○江部忠行ほか

28. β' マルテンサイト兄弟晶の配列換と変形双晶 北大工 ○安藤公彦ほか

16:15~17:35

29. 含 Nb ステンレス鋼表面不動態皮膜のオージェ分析 北大工 金 鎮源ほか

30. 濃厚アルカリ性水溶液中における Fe-Ni 二元合金表面アノード酸化皮膜の組成分析 北大工 ○世良雄二ほか

31. 純鉄の高温酸化に及ぼす SO₂ ガス添加の影響 北大工 ○黒川一哉ほか

32. 316 ステンレス鋼の硫化腐食挙動 北大工 ○北島国博ほか

第 17 回鉄鋼製錬研究懇談会

第 29 回非鉄金属製錬研究懇談会

主催：東北大学選鉱製錬研究所，共催：日本鉄鋼協会東北支部，ほか

日 時 昭和 56 年 12 月 7 日(月)，8 日(火)
9:30~17:00

場 所 東北大学選鉱製錬研究所講堂
(仙台市片平 2 丁目 1-1)

主 題 特殊金属の製錬

プログラム

12月7日

- (1) Nb, Mo の資源および製錬
太陽鉱工 須藤 欽吾
- (2) 資源，製錬からみた Nb の動向
C BMM 門 智
- (3) 機能材料からみた特殊金属
東北金属 戸板 公志
- (4) 高融点金属 (Nb, Cr など) を用いた機能材料
東北大 深道 和明
- (5) 合金鋼における Nb, V, Ti の役割
新日鉄 中島 明
- (6) ニトロフロル法による Nb, Ta, V の抽出
東北大 木越 旭一
- (7) Nb, Ta の製錬
- (8) 含ニオブ溶銑の予備処理
東北大 井上 博文
- (9) 溶銑からのソーダ灰によるバナジウム回収
住 金 丸川 雄浄
- (10) 含バナジウム溶銑からのバナジウム回収に関する基礎研究
東北大 水渡 英明
- 懇親会 17:30 より

12月8日

- (1) プラズマ溶解による高純度 V, Ta の製造
東北大 三村 耕司
- (2) 錫スラグ中の Nb, Ta 東北工試 岡田 豊明
- (3) フェロクロム製造の現状と今後の課題
日本重化 田中 秀男
- (4) フェロニッケル製錬の現状と問題
日本鉱業 田中 克芳
- (5) 炭材内装クロムペレットの炭素還元
室工大 片山 博
- (6) クロム資源からみたラテライト鉱石の処理
鉄 源 古井 健夫
- (7) 金属クロム
東洋曹達 中山 光仁
- (8) コバルト製錬の現状と問題点
住友鉱山 山田 紘一
- (9) 総合討論

申込方法 ハガキに参加者氏名，連絡先を記入し，12月7日，8日，懇親会の出欠をそれぞれ明記の上，11月24日(火)までにお申し込み下さい。

申込先 〒980 仙台市片平 2 丁目 1-1

東北大学選鉱製錬研究所

(電話 0222-27-6200 内線 2611, 2613)

昭和 57 年秋季 (第 104 回) 講演大会討論会

討 論 講 演 募 集

昭和 57 年秋季 (第 104 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮つてご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

I. 高炉内の珪素の挙動 座長 徳田 昌則

高炉の低珪素操業の意義は製鉄側からも製鋼側からも定着し、低珪素操業技術確立への努力は重油吹込み操業から重油を吹込まない操業への転換という大きな節目も乗り越えて、着々と積み重ねられてきた。その過程で、低珪素操業が溶銑品質の安定化に寄与し得ることも指摘されている。一方、変動するエネルギー・経済環境は多様な操業形態に対応し得る制御技術の確立を促している。本討論会では、これらの成果や問題を標題の観点から整理し、さらに最近の基礎研究の成果を組みこんで討議を深めたい。積極的な参加を期待する。

II. 連鑄鑄片の品質と鋼の高温における力学的特性 座長 森 勉

我国の連鑄操業技術の進歩には著しいものがあり、春秋の講演大会でも、連鑄に関する沢山の研究が発表されている。このような研究成果、その発表のもたらす効果をさらに実り多いものとするため、時間を十分にかけて議論し、意見の交換を行う討論会を企画した。とりあげるテーマは、主として、鋼の凝固過程と冷却中の力学的性質及び組織と変形破壊挙動との関連、実操業時の欠陥(割れ等)の発生やその機構、そして今後いかなる研究を行つて連鑄技術をおし進めるべきかの問題である。多方面からの発表と活発な討論を期待する。

III. 継目無鋼管の製造技術の動向 座長 田中 孝秀

継目無鋼管の製造法については、PPM、MPM などの出現による進歩がみられ、また穿孔、圧延など個々の技術についても、モデル・ミルによる研究、あるいは実機における技術の改善が行われており、従来やや停滞気味であつたこの分野も、近年新しい技術の開発が顕著に進みつつあると思われます。

今回は、熱間圧延製造法に限定して、その製造技術、圧延技術にわたる分野の論文発表と討論をお願いします。

IV. 鋼の腐食の確率論的評価 座長 増子 昇

孔食やすき間腐食などの局部腐食現象や鋼材の環境強度に対する確率論的評価に関しては我国の研究が世界に先馳けて進展しており、最近種々の実用例が発表されるようになって来た。信頼性工学の手法を導入した材料の寿命予測が腐食の分野でも注目されるようになって来たということは、材料使用技術の向上に大きな貢献をするものといえる。この機会に現在の到達点を確認し、将来の飛躍のための足場を築くこととしたい。広い視野からの発表と討論を期待する。

V. 制御圧延・制御冷却をめぐる諸問題 座長 田中 智夫

2. 申込締切日 昭和 57 年 2 月 12 日 (金)

3. 申込方法 討論会参加ご希望の方は討論会申込書を下記までご請求下さい。申込用紙には必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 57 年 5 月 14 日 (金)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内(表、図、写真を含め 1 ページ 6,700 字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 9 号(昭和 57 年 7 月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 68 年第 10 号(8 月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 57 年 9 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)